

## 説 論

単純ですぐに結果を出せるため、恐らく多くの人がさまざまな場面で多数決に参加したことがあるに違いない。その中で自分の

意見を抑えて多数派の意見に同調したことはないだろうか。これは多数決でよく見られるパターンである。もちろん、自分の意見に固執せず、他者から影響を受けて意見を変えることは悪いことではない。しかし、自分を曲げて出した答えは本当に自分の答えだと言えるのだろうか。

人にとって、他者とのコミュニケーションは必要不可欠である。当然、何気ない会話で意見が食い

違ふときも多くある。そんな時、相手と一対一ならば互いの考えを言い合って理解し、食い違いを直すことができる。しかし、複数の人と会話していて大勢と自分で意見が分かれたときに反論せず、自分の意見を流して、無かったことにす

「周りがやっているから」とたばこや薬物に手を出したり、いじめられることを恐れていじめるように、周囲に染まることで自分を守っているのだ。それは自分の意思とは言えない。

## 少数派になることを 恐れるな

周囲に馴染むため、溶け込むた

め、自分を曲げて妥協することはあるかもしれない。しかし、誰かに同調してばかりいては、一番尊重すべき自分の意見が見えなくなってしまう。

自分と異なる意見を聞くことで、自分の意見が間違いだと気付かされるかもしれない。しかし、それを踏まえることで新しい見方がわかるのだ。そこからより考えを深めることができる。他者の考え方に対し、正面から否定したり、ただ流されたりしてはいけない。そこから学び、自分の考えを見直して新しい考えをつくっていくべきだ。それを他に支持する者がいなくても、自分なりに考えたものは大事にしなければならぬ。

少数意見の尊重は大切である。少数派の意見だからと無下にせず、その価値について考慮することは必要である。そういう意味でも、少数派になることを恐れて自分の意見を曲げてはいけない。自分の意見を保ち、確固たる意思を持つべきだ。